



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月30日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 内藤 秀幸 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	122,970	△0.6	7,212	40.5	8,465	32.6	5,659	29.5
29年3月期第3四半期	123,676	△1.3	5,132	14.0	6,385	13.4	4,371	14.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 9,060百万円 (92.9%) 29年3月期第3四半期 4,695百万円 (△34.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	105.89	105.89
29年3月期第3四半期	79.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	193,646	148,991	76.8
29年3月期	190,116	142,108	74.5

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 148,660百万円 29年3月期 141,724百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
30年3月期	—	20.00	—		
30年3月期（予想）				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,600	1.1	7,000	15.3	8,400	11.2	5,700	32.0	106.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	55,194,823株	29年3月期	55,194,823株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	1,750,127株	29年3月期	1,749,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	53,445,091株	29年3月期3Q	55,007,348株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日、以下「当第3四半期」）の我が国経済は、好調な企業収益を背景に、設備投資、個人消費は緩やかながらも拡大傾向にあり、総じて回復基調で推移しました。雇用情勢、所得環境の改善が継続し、先行きの景気回復も期待されるものの、海外政治情勢の不安定さや地政学的リスクの高まり等の不安要因も内在する不透明感が高い状態が続いております。

そのような環境の中、「中期経営方針2015」最終年度を迎えている当社は、業績を回復させ再び成長軌道に乗せるための施策実行に注力しております。クリーン・ケアグループでは、お客様との接点強化の各種取り組み、有職主婦・高齢世帯の増加に対応して簡単・効率的な掃除方法の提案とニーズが高まる役務提供サービスの強化等に取り組み、フードグループにおいては、「いいことあるぞ Mister Donut」のブランドスローガンの下でミスタードーナツブランド再構築とその他フード事業の育成に注力しております。

当第3四半期の業績は、クリーン・ケアグループが増収となった一方フードグループは減収となり、連結売上高は前年同期から7億5百万円（0.6%）減少し1,229億70百万円となりました。一方利益面につきましては、減収影響はあったものの、レンタル製品投入の減少等により売上原価が減少したことに加え、減価償却費、退職給付費用等の経費も減少したことで増益となり、連結営業利益は前年同期から20億79百万円（40.5%）増加し72億12百万円、連結経常利益も20億79百万円（32.6%）増加し84億65百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から12億88百万円（29.5%）増加し56億59百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成30年3月期第3四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
連結売上高	123,676	122,970	△705	△0.6
連結営業利益	5,132	7,212	2,079	40.5
連結経常利益	6,385	8,465	2,079	32.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,371	5,659	1,288	29.5

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成30年3月期第3四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	85,169	86,124	954	1.1
フードグループ	30,805	28,313	△2,492	△8.1
その他	9,921	10,746	824	8.3
小計	125,897	125,183	△713	△0.6
セグメント間取引消去	△2,221	△2,213	7	—
連結売上高	123,676	122,970	△705	△0.6

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益又は営業損失（△）

(単位：百万円)

	前第3四半期 (平成29年3月期第3四半期)	当第3四半期 (平成30年3月期第3四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
クリーン・ケアグループ	10,614	11,868	1,254	11.8
フードグループ	△510	243	753	—
その他	145	197	51	35.7
小計	10,249	12,309	2,060	20.1
セグメント間取引消去 及び全社費用	△5,116	△5,097	19	—
連結営業利益	5,132	7,212	2,079	40.5

※各セグメントの営業利益又は営業損失には、セグメント間の取引を含んでおります。

①クリーン・ケアグループ

クリーン・ケアグループの売上高は、前年同期から9億54百万円（1.1%）増加し861億24百万円となりました。利益面につきましても、増収に伴う粗利の増加に加え、スタイルクリーナー等レンタル製品投入減少等による売上原価の減少及び販売促進費等の経費減少により、営業利益は前年同期に比べ12億54百万円（11.8%）増加し118億68百万円となりました。

家庭向けダストコントロール商品の売上高は、レンジフードフィルター等、売上が減少した商品もありましたが、販売に注力している「おそうじベーシック3」（フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、スタイルクリーナー」のセット商品）の売上増加、顧客接点獲得のために積極的に販売している台所用スポンジの売上貢献に加え、当期の期初から全国でのレンタルを開始した「ロボットクリーナーSiRo」や11月に発売した羽毛布団等の寝具売上も寄与し、全体では前年同期を上回りました。

事業所向けダストコントロール商品につきましては、機能性が高い屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、「うす型吸塵吸水マット」等が引き続き順調に推移する一方、その他のマット売上が減少し、主力であるマット商品は全体では前年同期並みの売上となりました。また、化粧室関連商品やウォーターサーバー本体の売上が減少したものの、前期1月の中型に加え、11月には小型を発売した空間清浄機「クリア空感」の売上が寄与したこと等で、事業所向け全体の売上高は前年同期を上回りました。

役務提供サービスにつきましては、「ホームリペア（壁や床の補修サービス）」を当期より本格導入した他、「サービスマスター（プロのお掃除サービス）」「メリーメイド（家事代行サービス）」「ターミニックス（害虫獣の駆除と予防管理）」「トータルグリーン（緑と花のお手入れサービス）」、いずれもお客様売上が増加し、ロイヤルティ収入が増加しました。更に、サービス時に使用する資器材等のフランチャイズ加盟店向け売上も増加し、役務提供サービス全体の売上高は前年同期を上回る結果となりました。

クリーン・ケアグループのその他の事業につきましては、レントオール事業（日用品・イベント用品等のレンタル）、ユニフォーム関連事業、化粧品関連事業、ホームインステッド事業（高齢者向け生活支援サービス）、いずれも順調に推移しました。

②フードグループ

フードグループの売上高は、ミスタードーナツのお客様売上減少を主因に、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料売上共に減少した結果、前年同期から24億92百万円（8.1%）減少し283億13百万円となりました。前年同期は損失計上となった利益面につきましては、減収に伴う粗利の減少があったものの、減価償却費や配送費、退職給付費用等の経費減少の結果、前年同期から7億53百万円増加し、2億43百万円の営業利益を計上しました。（前年同期は5億10百万円の営業損失）

当期のミスタードーナツは、最高水準の素材と技術を持つブランドと共同開発した商品で、お客様へ最高のおいしさ・価値とワクワクする気持ちを提供する「misdo meets」を展開しており、株式会社祇園辻利、株式会社ソラノイロ、ハウス食品株式会社、株式会社タニタ、各社との共同開発商品を発売しました。またライフスタイルの変化と共に多様化する「食」へのニーズに対応して、朝食やブランチ、ランチタイムなどおやつの時間帯以外でも楽しんでいただけるブランドへの進化を目指して、「ミスドゴハン」をキーワードにした軽食メニューを11月に新たに導入し、概ね順調に推移しております。更に、8月、12月のKDDI株式会社「三太郎の日」キャンペーンへの参加等、新規顧客につながる他企業とのタイアップ企画にも積極的に取り組んでおり、お客様から好評を得ております。しかしながら、不採算店舗のクローズに伴う稼働店舗数の減少影響が大きく、第3四半期の全店お客様売上は前年同期を下回る結果となりました。

その他のフード事業につきましては、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は好調を維持しておりますが、「カフェデュモンド」、「パイフェイス」（パイ専門店）、「ザ・シフォン&スプーン」（シフォンケーキ専門店）、「ベーカリーファクトリー」（大型ベーカリーショップ）は減収、また、どんぶり専門店「ザ・どん」等を展開していた連結子会社株式会社どんの全株式を前期中に株式会社フジオフードシステムに譲渡した影響もあって、その他のフード事業全体の売上は前年同期を下回りました。

③その他

その他の売上高は、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社は、大口顧客の契約が再リースとなったこと等で減収、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは、顧客数の増加により増収となりました。海外につきましては、事業所向け売上が順調に推移した楽清（上海）清潔用具租賃有限公司が増収となった他、台湾向けミスタードーナツ原材料やペーパータオルの取扱量が増加した楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）も増収となりました。また、前期子会社化したBig Appleグループ（マレーシア最大のドーナツチェーン）の売上も計上され、海外全体でも増収となりました。その結果、その他全体の売上高は前年同期から8億24百万円（8.3%）増加し107億46百万円となりました。営業利益につきましては、ダスキン共益株式会社が減収に伴い減益、株式会社ダスキンヘルスケアは人員募集経費等の増加により減益となったものの、海外事業における営業損失が減少したこと等により、その他全体の営業利益は前年同期から51百万円（35.7%）増加し1億97百万円となりました。

なお海外お客様売上は、クリーン・ケア事業につきましては、台湾、中国（上海）は前年同期を上回りましたが、韓国は前年同期を下回りました。ドーナツ事業につきましては、Big Appleグループの売上が計上されたマレーシアは増加し、加えて、台湾、インドネシアも順調に推移しておりますが、中国（上海）、タイ、フィリピンは減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,936億46百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して35億29百万円増加しております。その要因は、有価証券が53億89百万円、投資有価証券が20億49百万円増加したことに対し、現金及び預金が36億53百万円減少したこと等であります。

負債残高は446億54百万円となり、前期末と比較して33億53百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が14億94百万円、賞与引当金が13億77百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,489億91百万円となり、前期末と比較して68億82百万円増加しております。その要因は、利益剰余金が35億21百万円、その他有価証券評価差額金が30億67百万円増加したこと等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）通期の業績予想は以下のとおりであります。平成29年10月12日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表し、それ以降変更はありません。

[連結]

(単位：百万円、%)

	平成30年3月期（予想）			平成29年3月期（実績）	
		百分比	前期比		百分比
売上高	163,600	100.0	1.1	161,880	100.0
営業利益	7,000	4.3	15.3	6,069	3.7
経常利益	8,400	5.1	11.2	7,554	4.7
親会社株主に帰属する当期純利益	5,700	3.5	32.0	4,318	2.7

[個別]

(単位：百万円、%)

	平成30年3月期（予想）			平成29年3月期（実績）	
		百分比	前期比		百分比
売上高	135,300	100.0	0.8	134,245	100.0
営業利益	4,600	3.4	13.0	4,069	3.0
経常利益	7,100	5.2	9.6	6,478	4.8
当期純利益	4,800	3.5	28.9	3,723	2.8

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,200	17,547
受取手形及び売掛金	9,887	11,054
リース債権及びリース投資資産	1,359	1,365
有価証券	16,018	21,408
商品及び製品	7,388	7,407
仕掛品	157	180
原材料及び貯蔵品	1,557	1,445
繰延税金資産	1,719	1,412
その他	2,766	4,175
貸倒引当金	△34	△38
流動資産合計	62,021	65,958
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,157	44,143
減価償却累計額	△26,388	△26,726
建物及び構築物（純額）	17,769	17,416
機械装置及び運搬具	24,880	25,230
減価償却累計額	△18,134	△18,484
機械装置及び運搬具（純額）	6,745	6,745
土地	23,628	23,504
建設仮勘定	241	120
その他	11,903	12,388
減価償却累計額	△8,955	△9,470
その他（純額）	2,948	2,917
有形固定資産合計	51,334	50,705
無形固定資産		
のれん	793	703
その他	6,825	7,049
無形固定資産合計	7,618	7,752
投資その他の資産		
投資有価証券	58,979	61,028
長期貸付金	5	3
繰延税金資産	2,263	825
差入保証金	6,304	6,072
その他	1,616	1,328
貸倒引当金	△27	△29
投資その他の資産合計	69,142	69,229
固定資産合計	128,095	127,687
資産合計	190,116	193,646

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,836	6,837
短期借入金	78	168
1年内返済予定の長期借入金	10	2
未払法人税等	2,337	842
賞与引当金	3,255	1,877
資産除去債務	12	56
未払金	7,583	6,475
レンタル品預り保証金	9,421	9,771
その他	5,069	4,608
流動負債合計	34,603	30,641
固定負債		
退職給付に係る負債	11,901	12,606
資産除去債務	616	577
長期預り保証金	812	798
長期未払金	74	23
その他	0	7
固定負債合計	13,403	14,013
負債合計	48,007	44,654
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,086	11,087
利益剰余金	117,332	120,854
自己株式	△3,568	△3,570
株主資本合計	136,203	139,723
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,754	10,822
繰延ヘッジ損益	—	4
為替換算調整勘定	△120	△104
退職給付に係る調整累計額	△2,113	△1,785
その他の包括利益累計額合計	5,521	8,936
新株予約権	—	6
非支配株主持分	384	324
純資産合計	142,108	148,991
負債純資産合計	190,116	193,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	123,676	122,970
売上原価	68,529	67,372
売上総利益	55,146	55,598
販売費及び一般管理費	50,013	48,385
営業利益	5,132	7,212
営業外収益		
受取利息	312	261
受取配当金	295	309
設備賃貸料	129	113
受取手数料	165	146
持分法による投資利益	129	183
雑収入	513	406
営業外収益合計	1,547	1,420
営業外費用		
支払利息	0	5
設備賃貸費用	24	41
支払補償費	36	30
解約違約金	90	26
自己株式取得費用	60	—
雑損失	83	63
営業外費用合計	294	167
経常利益	6,385	8,465
特別利益		
固定資産売却益	0	31
投資有価証券清算益	114	—
関係会社株式売却益	24	—
その他	7	5
特別利益合計	147	36
特別損失		
固定資産売却損	21	93
固定資産廃棄損	125	84
減損損失	83	115
災害による損失	174	0
その他	8	5
特別損失合計	412	299
税金等調整前四半期純利益	6,120	8,202
法人税等	1,749	2,557
四半期純利益	4,370	5,644
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△14
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,371	5,659

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	4,370	5,644
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△173	3,067
繰延ヘッジ損益	18	4
為替換算調整勘定	△186	△9
退職給付に係る調整額	795	317
持分法適用会社に対する持分相当額	△129	35
その他の包括利益合計	324	3,415
四半期包括利益	4,695	9,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,757	9,074
非支配株主に係る四半期包括利益	△61	△14

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	84,580	30,796	8,299	123,676	—	123,676
セグメント間の内部売上高 又は振替高	589	9	1,622	2,221	△2,221	—
計	85,169	30,805	9,921	125,897	△2,221	123,676
セグメント利益又は損失(△)	10,614	△510	145	10,249	△5,116	5,132

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,116百万円には、セグメント間取引消去56百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,173百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「クリーン・ケアグループ」において、事業譲受により株式会社ダスキン八代に142百万円、株式会社ダスキン鹿児島に145百万円のものれんが当第3四半期連結累計期間で発生しております。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	158	9	—	—	167
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	607	39	—	—	647

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したものれん残高607百万円(クリーン・ケアグループ)、39百万円(フードグループ)であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	85,577	28,305	9,086	122,970	—	122,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	546	7	1,659	2,213	△2,213	—
計	86,124	28,313	10,746	125,183	△2,213	122,970
セグメント利益又は損失(△)	11,868	243	197	12,309	△5,097	7,212

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,097百万円には、セグメント間取引消去47百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,145百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	クリーン・ケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	133	—	16	—	150
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	499	—	203	—	703

- (注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高499百万円(クリーン・ケアグループ)、平成29年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高203百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。